

牛久：学校周辺に見る自然

第7号 ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小）

2013年5月30日発行

＜ 春の生きもの観察 ～みずべ公園 ③その他の樹木と昆虫たち ＞

ひたち野うしく小4年生とのみずべ公園、春の生きもの観察、今回はエゴノキ、クサギ以外に開花中だった樹木と、若い実が成長を始めていた木、そしてそこに来ていた昆虫たちの紹介です。



まずは「大きな白い花びらの木の花・・・」といたいところですが、正しくは白い大きな4枚は「総苞：そうほう」といつて葉に当たります。本当の花は、まん中にある大仏の頭のような丸いので、ここに25個くらいの花が集まっています。よく見るとまだつぼみですね。同じ花が、2週間後の27日には咲いていました。名前は**ヤマボウシ**。



花びらのような白い総苞を開いたヤマボウシ(左：5/14)と、開花中の本当の花(右：5/27)。総苞は葉に当たり、ドクダミの白い花びらのようなものと同じ。

そうかと思うと、花の時期が終わったばかりの木の花もありました。**イヌザクラ**です。これと似て少し前に花が終わったウワミズザクラとは、花穂の下に葉がつくかどうかで区別できます。



花が終わり、緑色の小さな実がふくらみ始めたイヌザクラ(左)。右は4/10、開花中のウワミズザクラ。花穂の下に葉がつくかどうかで区別できるが、よく見ると一つひとつの花も、果実も、葉も、樹皮も違う。



赤く色づき始めた桜の実（左）と、まだ緑色だけれどだいぶ大きくなったイヌシデの実（右）。

他にも、日に日に成長を続けている若い木の実がありました。左の赤く色づき始めたのは桜の実。下見の時に、一番紅く色づいたのを採ってかんでみましたが、渋くてとても食べられたものではありませんでした。でも鳥は果実の色に敏感で、熟しておいしくなったのをしっかり見分けて食べるようです。放射能の心配がなければ、皆さんにも試してもらいたいところですが、残念です。

右の穂のようにぶら下がる翼をもった果実は、イヌシデ。秋に熟すと、マツの種子やカエデの果実と同じように、風にのってくるくる回りながら落ちてきます。



高い枝についていたハラビロカマキリの卵のう（左）と、皆さんの身長より低い木の枝についていたオオカマキリの卵のう（右）。卵のうをつくる場所に違いがあるのは、生活場所に少しずれがあるためか？

さて、次は木に来る昆虫ですが、高い木の枝についた卵のうを見つけてくれましたね。「えっ、どこどこ？」とみんなで目をこらして確かめました。肉眼でははっきりしませんが、写真を拡大してハラビロカマキリの卵のうであることが分かりました。その場で確認できるデジカメは、便利です。双眼鏡などもあるとよいです。右はおなじみのオオカマキリの卵のう。ひと言にカマキリと言っても、種類によって生活が少しずつ違うので、卵のうをつくる場所も違ってきます。



ヤマザクラに来たスズメガの仲間、モモスズメ（左）と、サツキの葉にいたコメツキムシの仲間、ホソサビキコリ（右）。

最後に、左はヤマザクラの枝に飛んできたジェット機のような姿の大きなガ、モモスズメ。幼虫は、モモや桜などの葉を食べます。右はサツキの葉にいたコメツキムシの仲間、ホソサビキコリ。樹液や花の蜜などを食べるそうです。

【理科支援員：宮内】